

韓国藻類学会第 30 回大会に参加して

寺田竜太¹・川井浩史²

韓国藻類学会 (The Korean Society of Phycology) の第 30 回大会が 2016 年 9 月 28 日 (水) から 30 日 (金) の 3 日間、韓国済州島のラマダブラザ済州ホテルで開催されました。1986 年に設立された同学会は今年設立 30 周年を迎え、また学会誌「Algae; 旧誌名 Korean Journal of Phycology」も 30 巻を迎えたことから、本大会はこれを記念する大会として盛大に開催されました。日本からは筆者ら 2 名がシンポジウム演者などとして招待を受け、参加しました。

式典は韓国藻類学会会長の Hyung Geun Kim 教授 (Gangneung-Wonju National University) の挨拶に始まり、国際海藻協会 (International Seaweed Association) 会長の Alejandro H. Buschmann 教授 (Universidad De Los Lagos) と Asia-Pacific Phycological Association (APPA) 会長の Sung Min Boo 教授 (Chungnam National University) の祝辞がありました。その後、韓国内外の藻類研究者による祝賀メッセージが動画で流れ、日本人研究者のメッセージも数名紹介されました。また、過去 30 年間の大会やシンポジウムなどのスナップ写真がスライドショーで紹介されました。その後は、韓国における藻類研究史のレビューとなり、In Kyu Lee 先生 (Seoul National University 名誉教授) が、岡村 (1892, 釜山港で採集した 17 種の海藻) や J. Agardh (1889, ヤナギモク) の報告以降の海藻と淡水藻研究の歴史を紹介され、特に J.W. Kang 先生の功績を国内外の研究者との写真を交えながら詳細に紹介されました。また、韓国の海藻相についても紹介され、Kang (1966) で 414 種だった韓国産海藻は、Kim *et al.* (2013) で 908 種に達したことを述べられて

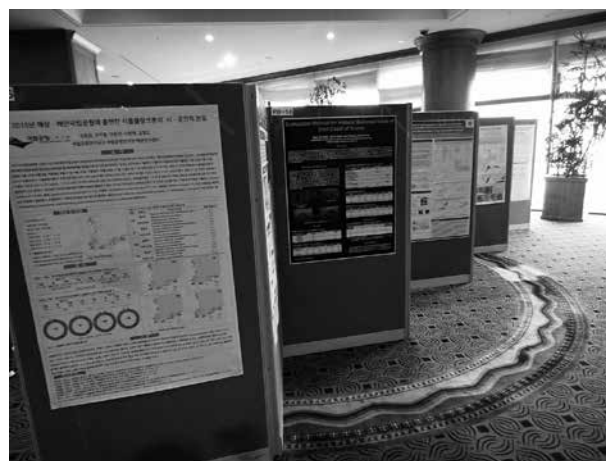
いました。内容もさることながら、年齢を感じさせないほどお元気な In Kyu Lee 先生に感銘を受けました。

大会自体は、基調講演、Special Session, Regular Session, シンポジウム、ポスター発表からなり、発表分野は日本とほぼ同じでした。筆者の 1 人である寺田は Regular Session の他に、済州島の海藻植生の長期モニタリングに関するシンポジウムにパネラーの 1 人として参加しました。九州北部と同じ緯度帯にある済州島では、海藻植生の変化や磯焼けが指摘されており、将来の変化や地域水産業への影響が危惧されています。筆者らは環境省モニタリングサイト 1000 (「モニ 1000」) 沿岸域調査の藻場モニタリングに携わってことから本シンポジウムへの参加を求められ、寺田が「モニ 1000」事業の取り組みについて紹介しました。「モニ 1000」では、6 カ所の藻場サイトを含む約 1000 カ所の観測点を日本各地に設け、毎年同じ方法で長期モニタリングを行っています。韓国には「モニ 1000 藻場」のような長期モニタリング事業はないとのことで、発表内容は驚きを持って受け止められました。韓国藻類学会では今回、済州島における長期モニタリングの必要性を地元自治体に提言し、3 年後を目処に具体的な計画を取り纏めるということです。なお 3 年後の 2019 年には、済州島で第 23 回国際海藻シンポジウム (International Seaweed Symposium) が開催される予定です。このシンポジウムで済州島の藻場長期モニタリングの活動が紹介されることを期待しています。

(¹ 鹿児島大学・² 神戸大学)



韓国藻類学会会長 Hyung Geun Kim 教授による挨拶



ポスター会場の様子